

御嶽海後援会便り NO. 39

令和7年12月20日

令和7年十一月場所 西前頭十三枚目 7勝8敗 二場所連続負け越し

年の瀬、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

御嶽海関は、番付を一枚下げ、今年最後の十一月場所に臨みました。

初日竜電関、二日目時疾風関に敗れ、先場所と同様に連敗スタートとなりました。三日目、前回の対戦で敗れている友風関の引きに足を運び初日を出しました。四日目、豪ノ山関に一方的に押し出されました。五日目、新入幕の欧勝海関に昨日とは反対に一方的な相撲で勝ち、序盤戦を2勝3敗で終えました。

六日目、初対戦から連勝している新鋭の藤ノ川関を我慢の相撲で下し、星を5分に戻しました。しかし、七日目、前回立ち合いの変化で敗れたベテランの千代翔馬関の真っ向からの攻めに対応できず、寄り切られ、再び黒星が先行しました。先場所は、ここから3連敗となりましたが、中日、前回の対戦で上手を許し逆転された湘南乃海関に対し、距離を取り十分な上手を許さず押し出し、再び星を五分に戻しました。九日目、佐田の海関と右四つになったものの力なく敗れ、再び黒星が先行しましたが、十日目、朝紅龍関を立ち合いの変化から上手投げで下し、三度星を五分に戻し5勝5敗で中盤戦を終えました。

十一日目、今日から場所に戻った明生関の肩透かしに足を運べず、白星先行とはなりませんでした。十二日目、金峰山関にも敗れ、勝ち越しに後がなくなりました。十三日目翠富士関、十四日目琴勝峰関に連勝し、再び星を五分に戻し、勝ち越しをかけて千秋楽に臨みました。千秋楽は、相星の熱海富士関との取組が組まれ、今回も熱海富士関に屈し、最後まで白星が先行せず、2場所連続負け越しとなりました。

優勝は、13勝2敗同士の優勝決定戦で横綱豊昇龍関を下した新関脇安青錦関でした。安青錦関の初優勝は、初土俵からのスピード優勝（所要14場所で2位）で、場所後に大関に昇進を果たしました。今回も場所を振り返り、紙面とします。

西前頭十三枚目としての十一月場所

御嶽海関からのひとこと



場所前 勝ち越して、一年を締めくくりたい。

場所を終えて 相撲を始めてから一番悲しい一年だった。

来場所に向けて 来年も頑張るよ。落ち込まない一年にしたい。

場所	勝敗	取組	決まり手	コメント（各報道・情報機関からの要約）
初 日	●	前十四 竜 電	（押し出し）	「ずっと合口が悪いから仕方がない。遠藤関が引退して寂しいけど、自分はまだまだ頑張るよ。」
二 日目	●	前十四 時 疾 風	（上手投げ）	「悪くはない。それでもあと一步、勝てないというのは何か考えないといけない。」
三 日目	○	前十二 友 風	（押し出し）	「何年やっても初日を出すのは気持ちがいいね。自分の相撲を取れると信じていた。その気持ちが大きかった。」
四 日目	●	前十三 豪 ノ 山	（押し出し）	「まあ、こんな日もあるでしょう。今日はしょうがない。相手からすれば、当たる角度がちょうどいい高さなんだろうね。」
五 日目	○	前十六 欧 勝 海	（押し出し）	「勢いのある子だから、しっかり取ろうと思った。負けていけないからね。序盤しっかり勝って締めくくりたかった。」
六 日目	○	前十二 藤 ノ 川	（叩き込み）	「中に入られるのは想定していた。そんなに前に出る圧力がある方ではないと思っていたし、こっちがちよっと残ると投げにくと思った。」
七 日目	●	前十七 千代翔馬	（寄り切り）	「まあしょうがない。相手が低かった。まだ7日目。ここからです。気持ちを引き締めて一生懸命やりますよ。」
中 日	○	前十五 湘南乃海	（押し出し）	「距離を一度取った。五分に戻ったことは大きい。一日一日、やれることをやっていく。」
九 日目	●	前十六 佐田の海	（寄り切り）	「ゆっくりと準備したいタイプなのに、結構せかされた。顔色

は真っ白だった。土俵に上がってから、急にぐらっときた。」

十日目 ○ 前十七 朝 紅 龍 (上手投げ)「イメージをつくり、一発で決めることができた。今日はあれしかなかった。」

十一日目 ● 前十八 明 生 (肩透かし)「自分の問題。自分が悪いです。」

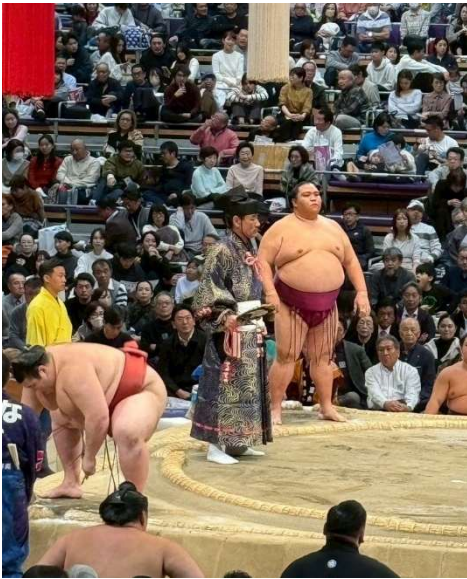
十二日目 ● 前 八 金 峰 山 (寄り切り)「自分の感覚で取ることができない。体ごと当たってこないからね。あんなんじゃ自分から動けない。やりづらい。」

十三日目 ○ 前 九 翠 富 士 (押し出し)「一番に臨む気持ちは何も変わらない。冷静にできました。じわじわと前に出ることができた。」

十四日目 ○ 前 十 琴 勝 峰 (叩き込み)「強く当たろうと思っていたし、実際に右もうまく浅く入った。相手が勝手に落ちていった。」

千 秋 楽 ● 前 六 熱海富士 (押し出し)「これが若手とベテランということ。力が入っていたけどね。」

○十一月場所(千秋楽)より



千秋楽取組



千秋楽パーティー (一番左は十両昇進を決めた出羽ノ龍さん)



○令和7年大相撲界と御嶽海関

日本相撲協会の前身にあたる「大日本相撲協会」が1925年(大正14年)に財団法人の許可を認可されてから、今年が100年、節目の年でした。初場所は、1横綱(照ノ富士関)3大関(琴櫻関、豊昇龍関、大の里関)、御嶽海関は、西前頭七枚目のスタートでした。横綱照ノ富士関が六日目に引退し、大関豊昇龍関が三つ巴の優勝決定戦を制し、場所後横綱に昇進しました。御嶽海関は、四日目から連敗となり自己最悪の2勝13敗となりました。三月場所は、新横綱豊昇龍関が途中休場し、大関大の里関が3度目の優勝を果たし、五月場所を綱取り場所としました。御嶽海関は、大きく番付を下げた東前頭十七枚目で3つ負け越し、十両に下がる結果となりました。五月場所は、大関大の里関が2場所連続の優勝を果たし、文句なく横綱昇進を決めました。東十両筆頭に下がった御嶽海関は、1年ぶりの勝ち越しを決め、1場所での幕内復帰を決めました。七月場所は、IGアリーナでの初開催となり、琴勝峰関が初優勝を飾りました。御嶽海関は、恒例となった木曾合宿を経て臨み、初日から6連勝し、20場所ぶりに二桁の白星を挙げました。九月場所は、横綱同士の優勝決定戦を制した大の里関が横綱として初めて賜杯を抱きました。御嶽海関は、場所2日目前に母親が急死した中、負け越しを1つにとどめました。場所後には、財団法人百周年場所と20年ぶりの海外公演(巡業を含めると12年ぶり)となるロンドン公演(5日間)が開催され、御嶽海関も元気に参加しました。十一月場所は、紙面のとおりで、出羽海部屋では、初場所に御嶽海関以来9年ぶりとなる関取が誕生することになりました。

節目の令和7年の大相撲界は、2横綱1大関が誕生し、若い力士も多く活躍し、来年に向け明るい展望となりました。御嶽海関は、自己ワーストの場所、十両での土俵、母親の急死など、コメントのとおりの1年でした。しかし、来年、部屋では新十両力士が誕生するので、御嶽海関もまだまだ元気に部屋を盛り上げる活躍をしてほしいと思います。初場所は、入場券が一般販売開始から数十分程度で完売しました。本後援会では、引き続き入所困難となっている入場券を確保し、会員の皆様方にお楽しみいただけるように取り組んで参ります。

来年も本後援会へのご理解とご協力、そして、何より御嶽海関への変わらぬ応援とご支援をいただきますようお願いいたします。良い年をお迎えください。